

小ギクの電照栽培において開花期の年次間差が少ない品種

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

1 部門名

花き—キク—生育調節

2 担当者

鈴木安和・宗方宏之・鈴木宏和

3 要旨

7～8月咲き小ギクは8月盆の需要期に出荷することが安定的な経営には不可欠であり、近年は電照による開花調節に取り組む産地が出てきている。7～8月咲き小ギクの品種選定の参考にするため、電照による開花期の安定が期待できる品種を選定した。

(1) ‘しずく’‘小鳩’‘精ちぐさ’‘精しまなみ’‘精はぎの’は電照により開花期の年次間差が無電照と比べて少なくなり、開花期が安定する。(図1)

(2) ‘キリン’‘花の舞’‘精かのか’‘金時’は電照の有無に関わらず開花期が安定する。(図1)

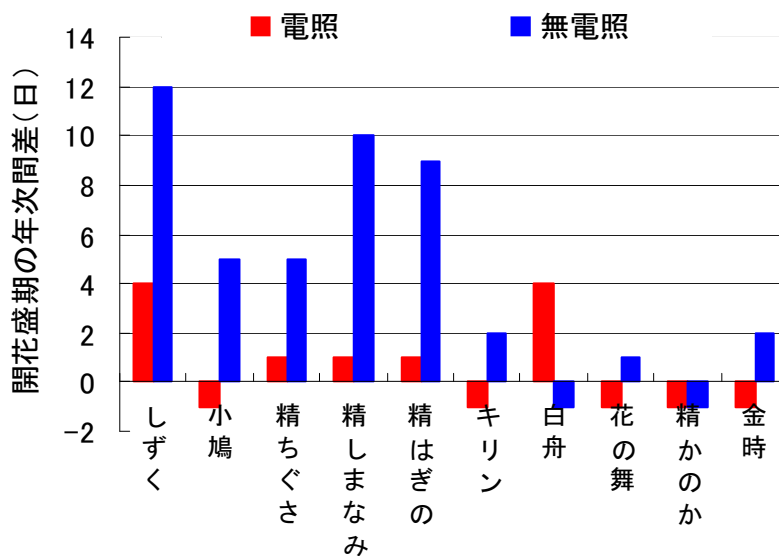


図1 電照の有無による小ギクの開花盛期の前年度との年次間差(2010年)

注)電照期間:2010/5/11～6/18 0:00～4:00の4時間

電照方法:100V75W電照用電球(みのり)を3m間隔で地面より高さ1.5mに設置

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度～22年度センター試験成績概要
- (2) 鈴木、宗方(2010)東北農業研究63.169-170